温故知新

歴史は未来の羅針盤

『近江日野の歴史』第六巻「民俗編」は、第一章「地域の暮らし」、第二章「人と家の暮らし」、第三章「四季の祈り」、第四章「日野の祭り」、第五章「伝承の文化」からなります。ただ今、役場・公民館などで好評発売中（税込み四千円）です。

琵琶湖を核とする豊かな大地に恵まれた近江は、古くから交通や経済の拠点が各地に成立しました。また、都に近いという地理的な要因から、神祇信仰や仏教文化が早くに広まり、神仏への篤い信仰が寄せられていました。

このような背景をもつ近江は、祭りの宝庫であると言われています。もちろん多彩な祭りや年中行事が伝承される日野町は、その一翼を担っています。

『近江日野の歴史』民俗編の第四章は、「日野の祭り」と題し、日野町の祭り文化、さらに言えば日野町の歴史風土を考えるうえでも、欠かすことのできない四つの祭礼を詳しく取り上げています。今回はその概要をお知らせします。

春を告げる ホイノボリの祭り

第一節は、ホイノボリが奉納される町内七つの神社の春祭りを取り上げました。ホイノボリは日野特有と言えることから、これらの祭りは「日野のホイノボリ」として県無形民俗文化財に選択されています。なお、ホイノボリとは、細長く割った竹ひごに和紙の花を付けたホイを、幟の先端に傘状に取り付けたものです。各神社での祭礼の様子だけでなく、祭りの起源・変遷や各地域でのホイノボリの製作技法なども紹介しています。

時代絵巻 日野祭

第二節で紹介しますのは、「日野曳山祭」の名称で無形民俗文化財の県指定を受けています日野祭です。馬見岡綿向神社の春季例大祭であり、日野を代表するこの祭りは、日野商人の財力を背景とした絢爛豪華な曳山巡行と、古式豊かな神事が織りなす一大時代絵巻とも言えます。単に祭りの流れを紹介するだけではなく、神子・神調社・曳山・祭囃子など、祭りを構成する重要な要素から、日野祭の本質に迫ります。

▲日野祭

夏の風物詩 火振り祭

第三節は、上野田と里口が伝承し、八月に行われる火祭りである火振り祭を取り上げました。この祭りの特徴は、火を灯した百数十本の松明を松の木の枝に向かって投げ上げるところにあり、祭りの名もこの情景から名付けられたと考えられます。松の枝に掛かる松明の数が多いほどその年は豊作であると伝えられています。

天下の奇祭 芋競べ祭

最後の第四節では、国の重要無形民俗文化財に指定されています中山の芋競べ祭を取り上げました。この祭りは、奉納した芋の長さを競って豊凶を占うもので、奇祭として有名です。祭りに携わる人々や祭具はもちろんのこと、過去の様子も交えながら、準備から神事までの流れを克明に記しました。また、内容は異なるものの、同様に芋を献じる徳谷の芋競べ祭も紹介しています。

▲中山の芋競べ祭り

E-mail chousi@town.shiga-hino.lg.jp